



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.67

Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2016. 秋

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



T.rex

超肉食恐竜



Episode II ティランノサウルスへの進化 2016 10/1^土~11/27^日

企画展イベント (10~11月)

講演会

「ティラノサウルス類を中心とした獣脚類恐竜の進化」

- 日時：10月2日(日) 13:30~15:30
- 講師：對比地 孝亘 (東京大学大学院理学系研究科)
- 対象：小学生以上 (小学生以下は保護者同伴)
- 定員：100名 ☎ ■参加費：無料
- 会場：博物館 学習室

講演会

「超肉食恐竜ティラノサウルス類、大解剖」

- 日時：10月16日(日) 13:30~15:30
- 講師：小林 快次 (北海道大学総合博物館)
- 対象：小学生以上 (小学生以下は保護者同伴)
- 定員：100名 ☎ ■参加費：無料
- 会場：博物館 学習室

ワークショップ

「恐竜時代の貝の化石レプリカをつくらう！」

- 日時：10月30日(日) 午前(10:00~11:30)、午後(13:30~15:00)
- 講師：廣瀬 浩司 (天草市立御所浦白亜紀資料館)
- 対象：小学生以上、小学3年生以下は保護者と一緒に参加
- 定員：午前、午後各30名 ☎ ■参加費：50円 (保険料)
- 会場：博物館 実験室

ワークショップ

「恐竜時代の化石さがしに挑戦しよう！」

- 日時：11月6日(日) 9:40~12:00
- 講師：久保田 克博 (神流町恐竜センター)
- 対象：小学生以上、小学3年生以下は保護者と一緒に参加
- 定員：30名 ☎ ■参加費：1,000円 (保険料含む)
- 会場：神流町恐竜センター

☎…電話での予約申込みが必要です (1ヶ月前の午前9時30分から)

展示詳解

「自然史博物館コレクション展

2017年1月14日(土)
～2月19日(日)

～20年のあゆみ～

自然史博物館は1996年に開館し、今年で開館20年を迎えます。人間が生まれてから月日を重ねて成長していくように、当館も開館以来成長を続けてきました。この特別展ではタイトル通り当館に収蔵されている資料を展示するとともに、これまでの自然史博物館の“成長の歴史”を紹介します。

たとえば当館に収蔵されているカマラサウルの亜成体の化石が久しぶりに登場します。この化石は当館の常設展示標本の中の目玉の1つ、カマラサウルの全身骨格標本が発掘された際に、そのすぐ近くから同時に発見されました。このような亜成体のカマラサウルの全身組立骨格は非常に貴重な標本です。

また近年の当館の収蔵標本の大半は一般の方からの寄贈標本が占めています。このような当館を支える寄贈標本や過去の群馬の自然を未来に伝える証拠標本、そして当館による調査研究によって新たに発見された新種の標本な

ど、普段の常設展示だけでは見ることのできない標本たちを展示します。また標本だけにとどまらず、展示だけではない自然史博物館の様々な側面など当館をいろいろな角度から紹介する予定です。皆さんにとってきっと新しい自然史博物館を見つける事ができるでしょう。(学芸係 木村 敏之)



自然のコラム 『群馬県の「県の石(鉱物・岩石・化石)」が選ばれました!』

日本地質学会によって選ばれた各都道府県の石(鉱物・岩石・化石)が5月10日に発表されましたので、群馬県の3点を簡単に紹介します。鉱物は下仁田町で見つかった鶏冠石(図1)が選ばれました。ヒ素を含み、ニワトリの鶏冠の様な真っ赤な色が特徴です。岩石は、嬬恋村の鬼押し出し溶岩(図2)でした。浅間山の前掛山の天明三年の

大噴火の時にできた安山岩質の溶岩です。そして化石は、富岡市で見つかったヤベオオツノジカ(図3)が選ばれました。江戸時代に発見され、蛇宮神社の宝物である化石と共に日本最古の化石発掘記録である出土記念碑などの関連資料も現存しています。

(学芸係 高桑 祐司)



図1



図2



図3

研究の扉 ツキノワグマ基礎調査

当館では、群馬県内に生息するツキノワグマの基礎調査を行っています。主な調査方法は、1) 赤外線センサーカメラによるカメラトラップ調査、2) 痕跡調査、3) 検体分析調査です。

図1は、試験的に2010年の4月から9月にかけて山中にてクマのカメラトラップ調査を行った結果です。誘引物を設置した一つの箱をモニタリングしました。横軸は、誘引物を設置した月日、縦軸は一日に動物が撮影された枚数です。対象地域に出没した他の野生動物とあわせてみると、モニタリング開始当初は、カラスの撮影枚数が多く、ついで、ハクビシン、タヌキが確認されました。しかし、時間の経過とともにクマとタヌキの撮影枚数の増加が認められました。また、誘引物が設置されるとこれらの動物は出没し、滞在時間も長くなる一方、箱の中の誘引物が無くなると、しばらく出没しなくなる傾向が認められました。このことから、クマを含めた野生動物は誘引環境が存在することを学ぶと、その環境がある限り出没し、滞在時間も長くなるとともに、誘引物への執着ともみられる行動が認められるようになるため、誘引環境をつくらない、認識させないことが大切であることがわかります(姉崎、2016)。

検体分析では、有害捕獲、狩猟捕獲されたクマの検体を群馬県内全域よりご提供いただき、個体の1) 死亡年齢、2) 性別、3) 食性、4) 栄養状態、5) 繁殖状態の把握を行っています。

2015年は50体が回収され(有害捕獲71体中回収率70.4%)、内訳をみるとオスが多く、年齢では3歳が最も多く、ついで2歳、1歳と比較的若い個体が主体を占めていました(図2)。ちなみに、たまに「そんなにたくさん解剖する必要があるのか」と聞かれ

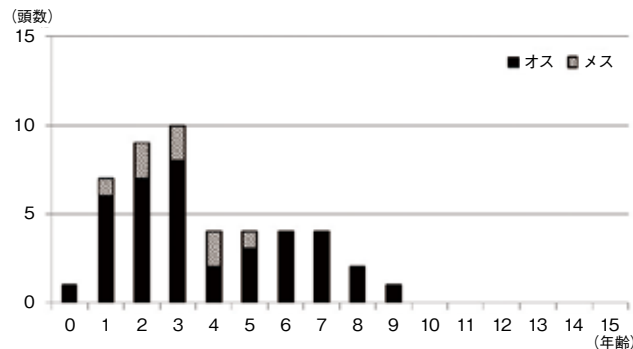


図2 クマ検体の年齢構成 (2015年度)

ることがありますが、クマの生息状況を科学的に把握するには、厳密にいうと回収率100%*が必要です。

さて、若いオスの捕獲が多いという傾向は、調査を始めた1997年から大きく変わっていません。ただ、2006年、2010年、2012年、2014年と県内でクマの大量出没が続いてきた中で、2014年、2015年については、それ以前と比較して10歳以上の個体が減少していることも明らかになってきました(姉崎、2014)。これが、たまたまなのか、それともほぼ各年で発生している大量捕殺によって個体群全体が若齢化したのか、あるいは、それ以外の要因によるものであるのかは、現段階ではデータが少ないため想像の域を出ません。しかし、一般的に人為的な捕獲圧が高まると個体群は若齢化するといわれ、今後の動向が懸念されるところです。

今後も当館ではクマの生息状況のモニタリングを継続して行っていきます。しかし、誘引環境に対するクマの行動をみる限り、クマが出没しないようにする

ためには人里にあるクマを誘引する誘引物の除去、人里にクマが出没しにくい里山の環境整備が必要であると思います。今後、多様な餌資源を得られる森林の保全や整備が進むことで、クマを含む野生動物と共存していくための環境が整っていくことを願っています。

註※統計学的に言えば、数百のサンプル分析が必要ですが、そもそも有害捕獲は調査を目的としたものでは無く、被害対策として最低限行うものなので全数検査が必要なのです。

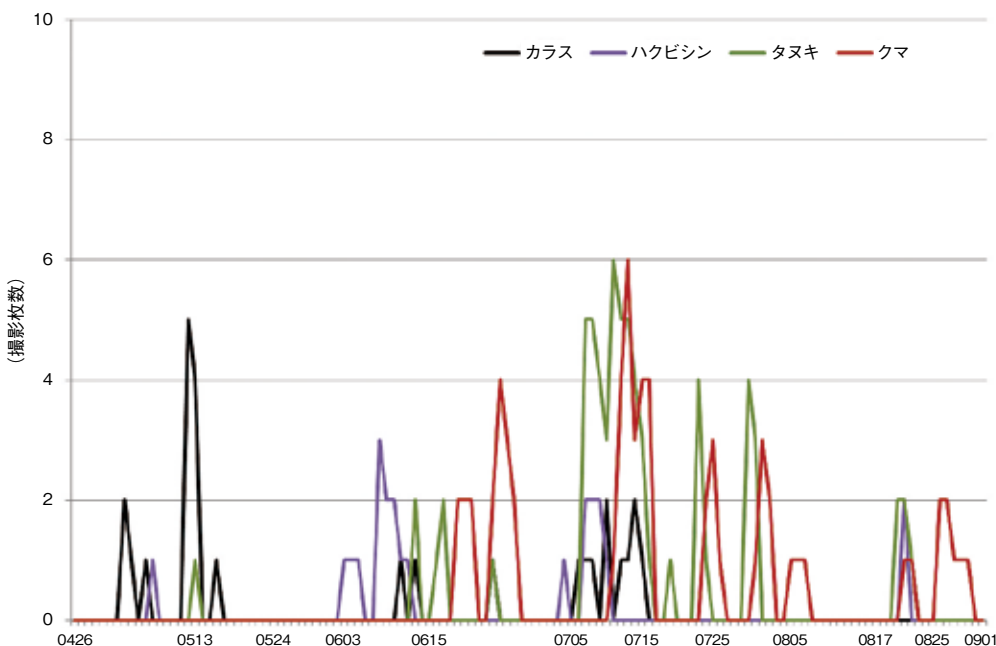


図1 ツキノワグマ、ハクビシン、タヌキ、カラスの撮影枚数と月日

(学芸係 姉崎 智子)

自然散歩

下仁田ジオパークシリーズ

あしやうねん

阿唱念の滝

下仁田の隠れ滝と言ってもよいのではないのでしょうか。白糸のようにさらさらと落ちる阿唱念の滝は、静かな涼しさを感じさせてくれます。天保の時代の空居上人が切り拓き、その後多くの行者が修行したと言われる場所でもあります。この滝の素晴らしさはコントラストにあります(図1)。安山岩の断崖の荒々しさと清楚に落ちる滝が織りなす空気感は何とも言えません。何にも代えられないこの雰囲気を楽しむに出かけてみませんか？



図1 山滴る白糸の阿唱念の滝

注意：阿唱念の滝に行くときは、落石と転倒に注意してください。沢に露出する安山岩には、マグマが冷える際に板状に割れてできた板状節理が発達しています(図2)。このような安山岩の崖は落石が多いのが特徴です。特に注意してください。また、滝までの登り道は濡れると最も滑りやすくなります。雨上がりや雨天に行くことは避けてください。(学芸係 菅原 久誠)



図2 沢によく見られる安山岩の板状節理

下仁田ジオパークウェブサイト <http://www.shimonita-geopark.jp/>

●登り口までのアクセス 車：上信自動車道下仁田インターからサンスポーツランド 駐車場まで 25分

電車とバス：上信電鉄下仁田駅からしもにたバス市野營線 「サンスポーツランド前」まで 20分

●登り口から滝までのアクセス 徒歩約1時間

ミュージアムナイトツアー

自然史博物館の館内に入ると大迫力のティランノサウルスの恐竜ロボットが動き、大きな鳴き声をあげ皆さんをお出迎えしています。その他にも展示室内には恐竜の化石やシカやクマ、ウサギなどの剥製もたくさんあります。AコーナーからEコーナーまで5つのコーナーに分かれた展示室にはそれぞれ特徴があり、多くのお客様に楽しんでいただいております。多くのお客様で賑わっている昼間が終わって閉館時間がやってきます。博物館館内にある展示物は、夜になると……。

ミュージアムナイトツアーは、閉館して静まりかえった夜の展示室内を案内するイベントです。夜の博物館内に入ることができると聞いただけでなんだかワクワク・ドキドキですね。ミュージアムナイトツアーの日は特別な日です。展示室内では昼間は起こらないことが次々と目の前で繰り広げられていきます！そんなワクワク・ドキドキをたくさんの皆さんに体験していただき、ますます自然史博物館のことを好きになっていただければと思います。

今年度は、1月28日(土)と2月4日(土)の2回行います。ぜひお申し込みください。博物館スタッフ一同、たくさんの皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。(教育普及係 月田 典寿)



利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)
 ■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)8月は全日開館
 ■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催時	510円 (団体割引20名以上410円)	300円 (団体割引20名以上240円)
開館20周年記念展開催時	820円 (団体割引20名以上650円)	410円 (団体割引20名以上320円)

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。
 ※有料者20名以上は団体料金で2割引となります。

群馬県立自然史博物館だより Demeter No.67

編集・発行 群馬県立自然史博物館
 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
 Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
 ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。